

<p>たくましく 心豊かな 地球市民</p> 	<p>瞳かがやく 附属松本中の子ら</p> <h1>すずかけの森</h1>	<p>令和8年5月8日（金） 信州大学教育学部 附属松本中学校 学校だよりNo.2</p> 
--	---------------------------------------	---

新緑がまぶしい季節となりました。校内には生徒たちの生き生きとした声が響き、学校全体が活気に満ちています。

4月27日には生徒会総会が行われ、今年度の生徒会スローガンは「飛翔」に決まりました。「一人一人が異なる羽（個性）を持ちながらも、それらが重なり合うことで大きな力となり、新しい附属松本中学校へ、そして新しい自分たちへと羽ばたいていく」という願いが込められています。総会に至るまでには、生徒集会や学級での話し合いを通して、全校で意見を出し合いながら検討が重ねられてきました。自分たちの学校生活を、今後どのようなものにしていくのかを真剣に考え、生徒会の一員として学校づくりに関わろうとする意識を高める機会となりました。

「飛翔」というスローガンのもと、生徒一人一人が自らのよさを発揮しながら、よりよい学校を築いていくことを願っています。



夢をあきらめない心のたくましさを育むために

～牧野校長先生のお話より～

令和8年度がスタートしました。4月に学校の宝になった1年生、学校の柱になった2年生、学校の顔になった3年生、この4月はどうでしたか。

修学旅行がありました。避難訓練がありました。休日に人文学部のアクアリジェネレーションと連携した人がいました。生徒会総会があり、生徒会スローガンが「飛翔」に決まりました。

この4月、皆さんはどのような成長をしましたか。

私は、始業式で『たくましく 心豊かな 地球市民』であれ』と話しました。今日は、その「たくましく」の部分について話をします。たくましさの中には当然、体のたくましさがありますが、それに加えて、心のたくましさもあります。心のたくましさとは、夢をあきらめないたくましさのことです。

皆さんは、自分の夢がありますか。夢があると言える人は手を挙げてください。昨年の校長講話で夢について聞いたときには、現在高校1年生のAさんが、「南極へ行く」という話を全校にしてくれました。大きな夢ですね。今後も努力を重ね、その夢を実現してほしいと思っています。

今、挙手をしてない人もたくさんいました。突然聞かれても難しいですね。では、質問を変えます。

自分の中で、自分が「こうだったらな」「あんなれたらいいのにな」と思うことがある人は挙手してください。こちらの質問の方が、先ほどよりも挙手が多いでしょうか。今の自分に満足できずにいることは、特別なことではないと思います。

フランスの劇作家アンリ・ド・モンテルランという人は、このようなことを言っています。

「夢は不満足から生まれる。満ち足りた人間は夢を見ない」

自分に満足できない、不満足でいることはだめなことではないのです。不満足だから「あんなりたい」とか、「こうだったらいいのにな」と思うのです。これも夢をもつことにつながっていくので、不満足であることも大切だと思います。

このように、将来こうなりたいという夢でも、自分の「こうだったらいいな」という夢でも、大きな夢でも小さな夢でも、私は夢を大切にしてほしいと思います。そして、夢をあきらめない心のたくましさを育ててほしいと思います。

また、夢を実現するには、夢に向かう努力とそれを支える心が必要です。

夢に向かう努力とすれば、「勉強する」「練習する」「我慢する」がまず思い浮かびますし、大谷翔平選手の夢ノート（曼荼羅チャート）から考えれば、「清掃する」「挨拶する」というのもそれに当てはまりますね。

「勉強」「清掃」

1. やりたくないからやらない
2. やりたくないけど親や先生に怒られるからやる
3. やりたくないけどご褒美のためにやる
4. やりたくないけどやるべきことだからやる
5. やりたいからやる
6. 面白いからやる

例えば「勉強する」や「清掃する」を夢に向かう努力として考えてみましょう。この努力を「やらない」から、「やる」という過程にいたるまでには、行為は同じであっても、様々な心の段階があるように思います。どうということかという、まず、「やりたくないから、やらない」という段階があります。次に、「やりたくないけれど、親や先生に怒られるからやる」という、罰が怖いからやる段階があります。さらに、「やりたくないけれど、ご褒美があるからやる」という段階があります。これには、褒められるからやるという場合も含まれますが、報償がある

からやるという段階です。次に、「やりたくないけれど、やるべきことだからやる」という段階があります。そして、「やりたいからやる」という段階、最後に「面白いからやる」という段階があります。

皆さんは今、どの心の段階にいますでしょうか。

この段階をいくつかのグループに分けることができます。これは、結果としての「やる」と「やらない」で分けることができると思います。

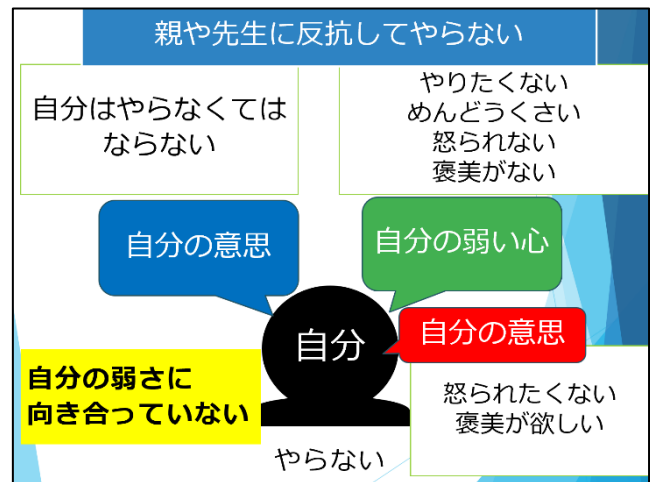
また、別格の下の2つは除いて考えたとき、上の図をどのように分けることができるでしょうか。色々な考え方があると思います。私は、怒られるからやる人は、怒られなかったらやらない人。ご褒美があるからやる人は、ご褒美がなかったらやらない人。つまり、自主性があるかないかで考えることもできると思います。

勉強や清掃はやらなくてはならない、これは自分の意思として皆さんの中にもあると思います。しかし、やりたくない、めんどくさい、怒られない、褒美がない等、弱い心がささやいてきたとします。すると、弱い心がどんどん大きくなり、弱い心に支配されてしまいます。自主性がないからそのような状況になってしまうのです。

逆に、やりたくないけどやるべきことだからやるという状況を考えてみましょう。弱い心がやりたくない、めんどくさい、怒られない、褒美もないと言ってきたとしても、自分はやらなくてはならないと考え行動できる状況になっている、これが弱い自分に打ち克つ「克己」という姿です。

夢を実現していくためには、「自主」と「克己」を大事にしてほしいと思います。

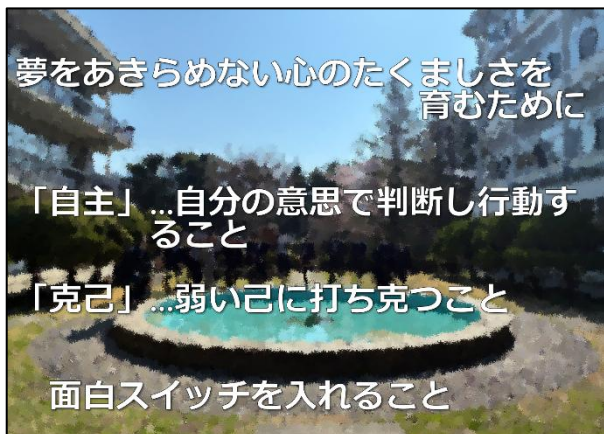
では、「親や先生に反抗してやらない」これは、どここの心の段階に入るのでしょうか。これもいろいろな考え方があると思います。このスライドで言うと「やる」よりは下に位置する段階とみることもできるし、親や褒美に左右されずに判断しているから、褒美よりは上に位置する段階とみることもできるかもしれません。では、その心の状況を考えてみましょう。「自分は、親や先生に怒られるのなんて怖くない。ご褒美なんかで動くことはない。だからやらない」と自分の意思で判断しています。こういった思考は、思春期の中学生には誰しもあるものだと思います。以前は大きくてかなわない存在だった親や先生にも、中学生になれば言いたいことを言えるというような感覚をもつのも当然だと思います。



しかし、よく考えてほしい。親や先生は、誰のために言っているのでしょうか。親や先生は、皆さんがいずれ困ることを分かっているで伝えています。それなのに反抗してしまうのは、親や先生に甘えてしまっているからではないでしょうか。そのことに、早く気付いてほしいと思っています。この状況で一番の問題は、本来向き合うべき「自分の弱さ」と向き合っていないことです。本当の強さとは、誰かに勝つことではなく、自分の弱さに打ち克つこと、すなわち「克己」だと私は思っています。

夢をあきらめない心のたくましさを育むには、「自主」と「克己」が大切なのです。

さて、さきほど別格扱いた、「やりたいからやる」「面白いからやる」という人の話をしましょう。こういう人たちは、最強です。夢に向かって努力することを楽しんでます。苦しんでいないのです。面白がれるから、苦しい人よりもやります。面白がれるから定着も早いです。こういう人は、夢がどんどん近くなります。あるバレーボール漫画には、主人公の「バレーが楽しくて、楽しくて仕方がない、自分が上手になるのが楽しくて仕方がない」様子が描かれています。この面白がれる力は、才能ではありません。自分の選択・見方です。自分から、めんどくさいと考えシャッターを下ろすと、つまらない苦勞の道が広がってきます。逆に何か面白いことを探そうとすると、不思議と面白くなってきます。やってみてください。



今日は、夢をあきらめない心のたくましさを育むために、「自主」＝自分の意思で判断し行動すること、「克己」＝弱い己に打ち克つことが大切なこと、そして最後に、面白スイッチを入れることについて話をしました。以上で、校長講話を終わりにします。

学校からのお知らせ

～4月28日 授業参観日の校長講話で話題にさせていただいたこと～

○いじめを許さない学校づくり

本校ホームページに、「いじめ基本方針」を掲載。学部への報告、必要に応じて医療・警察を含めた外部機関との連携、状況に応じていじめを受けた生徒の安全確保策を行います。

○3つのプロジェクトの立ち上げ

「課題探究力を発揮する授業づくり」、「いじめ防止プロジェクト」、「信州大学連携・幼小中連携プロジェクト」を推進していきます。

○部活動地域移行について

運動部は中体連の夏季大会、文化部は附中祭までを活動の区切りとします。それに伴い、部活動地域移行の受け入れ先であるクラブに学校から直接向かう場合の自転車通学を許可します。

○クラス替えについて

現1年生より、2年進級時に行います。学級発表は3月の新年度準備登校日に予定しています。あわせて、2・3年次のPTA役員決めも行います。

○授業時数について

中学校はスライド制で授業が回っているため、授業時数の不足はありません。学級閉鎖の際も、可能な限りオンライン授業を実施する予定です。

○楽都松本について

「セイジ・オザワ 松本フェスティバル 子どものための音楽会」に参加します。

○卒業式について

卒業式はコロナ前の従来の形に戻し、在校生も参加して実施します。全校合唱や送辞・答辞を通して、全校で心をつなげた行事を目指します。

○教職員と保護者が協力しながら、よりよい学校づくりを行っていくための新たな取組

長野県・長野県教育委員会・子どもの学びをトコトン支える県民の会作成「教職員に対する“行き過ぎた行為”に対する啓発ポスター」を掲示しています。また、内容確認のための録音機能付き電話を設置しています。勤務時間外の電話については、生徒の命に関わる場合を除き、ご遠慮いただくようお願いいたします。内容によっては、学校として法的な対応が必要か確認するため、弁護士が同席してお話を伺う場合があります。

○開校80周年記念行事について

10月26日(月)午後、キッセイ文化ホールにて80周年記念式典を予定しています。合唱発表、総合的な学習の発表、学長講演等を計画しています。また、航空写真撮影や記念企画実施に向けて、有志による「80周年記念プロジェクト」が活動を始めています。